



# 中央公民館図書室と 学校図書室の連携強化、 その中味は

五十嵐多喜子議員

**問** 7月号の広報紙で市長への手紙の答えに「中央公民館図書室と学校図書室の連携強化等さらなる取り組みをすすめている」とあるが、どう取り組んでいるか尋ねる。

**学校教育課長** 学校図書室の充実については、毎年予算計上して充実に努めている。国が定める学校図書館蔵書冊数に達している。

**問** 現実的には、廃棄する本の冊数が増えて蔵書が増えず、国は新学校図書館図書整備5ヵ年計画を立てた。我が市の18年度廃棄した本



長崎市の「観光ボランティア」による観光案内

の冊数、またその規定は定められているか尋ねる。

**学校教育課長** 全国学校図書館協議会が制定している廃棄基準に沿っている。18年度は5,635冊である。

**市**の基準は、今後検討したい。

**問** 学校司書の研修、今後読書活動推進計画はあるか。

**社会教育課長** 統一的な研修は、学校長との協議が整えば、できない事はない。推進計画は、県教委から強い指導があつているが、今年度、来年度、計画を立てますとは約束できない。

**ボランティア養成** その目的は、活用先は

**問** 第四次筑後市総合計画の一番の中心軸は、協働である。養成、支援、人材の活用という流れが必要と思う。今市内では、似たようなボランティア募集があつているがどう思うか。

**市長** 総論は皆前向き。各論になると前に進まない。協働のまちづくりをやるには、市民参加。参加のために、研修の場をきつちり系統立てて取り組まないといけない。検証し直して、市民の皆様に投げかけた。

## コミュニティ無線の 実情は

貝田義博議員

**問** 防災のための緊急情報や地域コミュニティを図る手段として、市は約1億円かけて無線装置を設置したが、「聞こえない、聞こえない」地域がある。実施に当たつての調査、対策はどうしたのか。

**総務課長** 市内全域を対象に公民館など88カ所にスピーカーを設置し、7月から運用開始した。区長や市民から「聞こえない」や逆に「うるさい」との声が届いている。音声の届く範囲は半径300mだが、導入時に到達範囲の調査はしていない。いま区長に、スピーカーの出力や向きなど変更への要望や今後アンケートを実施するなどして対策を考える。

**問** 装置は防災が主のはず。予測がつかない災害を考えれば本格稼働の前に音量調査すべきではなかったのか。



コミュニティ無線

**市長** 対応が手ぬるいようだが、直ちに現状や機能について調査する。

**下水道の受益者負担金** 下水道の受益者負担金申告書の提出状況は

**問** 下水道の受益者負担金に関する申告書の提出状況と未提出の理由は何か。

**下水道課長** 提出率は85%。未提出の理由は「利用する考えはない」との意見や経済的理由などである。

**問** 未提出者への催告書の中に「提出しない場合には不利が生じる可能性があると考えられます」との表現があるが、市民から見ると問題ではないかと思うがどうか。

**下水道課長** 申告書が提出されない場合には、市で認定することになり間違つた賦課をすることもある。説明が不足していた点はお詫びする。